

# 第 4 章「DLA〈読む〉」

## DLA 〈読む〉 概要

### (1) 目的

- ・ 教科学習言語能力の育成のためには「読書力」の育成が重要となります。
- ・ 「読書力」とは、まとまりのある文章を読んで理解する「読解力」、文章をよりよく理解するために児童生徒が使用する読解ストラテジー（方略）や、文字・単語・文の読みの流暢さを表す「読書・音読行動」、そして本や読書への関わりや態度を示す「読書習慣・興味・態度」の3つの面からなる力を指します。
- ・ **DLA 〈読む〉** では「読書力」を測ります。このDLA 〈読む〉を通して、多角的に読書力を測ることで指導のヒントを得ると同時に、児童生徒が本に興味を示し、読書が好きになるきっかけを作ることを目指しています。

### (2) 対象

- ・ **DLA 〈読む〉** は、会話の流暢度があり、低学年では文字の習得が始まっている児童、高学年、中学生では短いまとまりのある文章が読めるようになっている児童生徒を対象とします。
- ・ 例えば、学齢期の途中で来日し、高学年であっても日本語の文字を十分に習得できていない児童生徒に対しては使用できません。

### (3) 方法

- ・ まず、対象となる児童生徒が読めそうなテキストを、別冊資料の「**DLA 〈読む〉** レベル別テキスト」から一つ選びます。
- ・ そして、そのテキストに対応した**DLA 〈読む〉** 実践ガイド（本章のp42-62）にそってテキストを読み、評価者との一対一での対話を通して、内容をどの程度理解しているかを測ります。

### (4) 構成

- ・ **DLA 〈読む〉** は、次の4つからなっています。
- ① 「**DLA 〈読む〉** レベル別テキスト」（別冊資料）  
7つのテキストがあります。児童生徒の年齢、滞在年数、日本語レベルを考慮しつつ、児童生徒主体で選択します。
- ② 「**DLA 〈読む〉** 実践ガイド」（p42-62）  
7つのレベル別テキストに対応したDLA 〈読む〉 実施の手引きです。実施者はここに書かれている手順、声かけ・発問例に従って進めます。
- ③ 「**DLA 〈読む〉** 診断シート」（p63-71）  
DLA 〈読む〉 を実施したあと、採点・評価に使用します。
- ④ **JSL評価参照枠「読む」**（p72）  
採点・評価で診断シートに記入した結果を、JSL評価参照枠「読む」に照らし合わせて、ステージを決定します。

## (5) 実施の前に

### 用意するもの

- ・ **DLA** 〈読む〉の実施には以下のものを使用します。
  - ・ 選択したテキストに対応した**DLA** 〈読む〉実践ガイド（p42-62）
  - ・ 対象児童生徒が読めそうなテキスト2～3冊（別冊資料から選ぶ）  
（テキストを選ぶ基準は下記の【テキストの対象年齢】を参照）
  - ・ 録音（録画）機器（ICレコーダー、MD、テープレコーダーなど）

### 使用テキストの選択方法

- ・ **DLA** 〈読む〉では、以下の計7冊のレベルの異なるテキストを別冊資料として添付しました。下の【テキストの対象年齢】の表を参考にし、児童生徒の現年齢、滞日期間や入国年齢、興味や既有知識、その他の条件を考慮した上で最初に手にするテキストを選びます。

#### 【テキストの対象年齢】

レベル	内容	年齢枠					別冊 頁番号	実践 ガイド 頁番号
		6-7歳 (1年生)	7-8歳 (2年生)	8-10歳 (中学年)	10-12歳 (高学年)	12- 15歳+ (中学生)		
A (就学前児童用)	「えんそくのおとしもの」	○	○				5	42
B (小学1年生 前半用)	「ことりと木のは」	○	○	○			21	45
C1 (1年生後半用)	「花いっぱいになあれ」	●					29	48
C2 (2年生用)	「あつまれ、楽器」		●	○		○	45	51
D (中学年用)	「貝がら」			●	○	○	51	54
E (高学年用)	「アニメーションとわたし」				●	○	63	57
F (小学校終了～ 中学校前半用)	「自然を守る」				○	●	75	60

- ・ 実践ガイドに沿って、まず、表中の黒丸（●）のテキストを児童生徒に手渡し、子ども自身が難しいと言った場合に、下のレベルのテキストに変更します。
- ・ 黒丸（●）で示したテキストが難しいと初めからわかっている場合は、その下のレベルのテキストからスタートしてもかまいません。
- ・ レベルC1とC2は、どちらも小学校低学年用の教材ですが、物語文か説明文かというテキストタイプの違いがあります。小学2～4年生の子どもに対して、このレベルCのテキストを使用する場合は、子どもの好みに合わせてどちらかを選んでください。
- ・ 但し、丸（○）のついていないレベルのテキストは、認知レベルやテーマが適していないため使用すべきではありません。例えば、中学生でレベルDのテキストが読めるだけの力がまだ身につけていない児童生徒には、**DLA** 〈読む〉は使用できません。
- ・ 尚、この7つのテキストのうち、レベルAのテキストは本事業のための書き下し、BからFのテキストは、以前の国語教科書（光村図書出版株式会社）に掲載された作品を集めた『光村ライブラリー』（2002、光村図書出版株式会社）から選んだものです。詳しい出典、作者等については、別冊資料の最後のページをご参照ください。

### テキスト中の漢字のルビについて

- ・ レベルB、Cは全ての漢字に、レベルDでは中学年での新出漢字に、レベルE、Fでは高学年での新出漢字にルビが振られています。もし、既習漢字の読みの力を測定したい場合は、ルビを減らしてもかまいません。ただし、漢字の負担から、読みへの抵抗感が強まらないように配慮する必要があります。

## (6) 実施手順

- ・実践ガイドにしたがって、「読むまえに」「読みましょう」「話し合いましょう」「読んだあとで」の順に進めます。

### ① 読むまえに

#### 興味・関心

- ・1～2つのキーワードを確認し、テーマについて児童生徒の関心を引き出します。

#### 予測・推測

- ・レベルに応じて、絵や挿絵を見たり、テキストの最初の部分を読み聞かせて、内容を予測・推測させます。

### ② 読みましょう

#### 読み聞かせ・音読・黙読

- ・実施者と一緒に1冊のテキストを最後まで読みます。実践ガイドに従って、実施者が読み聞かせをし、その後に児童生徒が音読、あるいは黙読をします。
- ・音読、黙読の際は、児童生徒が漢字の読み方や語彙の意味を質問した場合にはすぐに答えます。間違って読んだ場合でも訂正しません。

### ③ 話し合いましょう

#### あらすじ・要旨の口頭再生

- ・テキストを閉じて、読んだ内容についてあらすじや要旨を口頭で再生させます。
- ・あまり再生できない場合でも、「一緒に最初から思い出してみよう」「初めに誰が出てきましたか」「それから?」「最後にどうしましたか」等と声かけをし、児童生徒の発話を最大限に引き出します。
- ・再生ができない場合に児童生徒にもう一度テキストを見せることはお勧めしません。理解したことを再生するのではなく、読んでしまうケースが多いためです。(特にレベルD以下のテキスト)

#### 理解を深めるやりとり・解釈・感想・意見

- ・口頭再生に含まれなかった情報について追加質問をしたり、理解を深めるための質問をしたりします。また、内容についての感想や意見、その意見の理由や根拠を聞きます。
- ・レベルE、Fでは、この時点で再度テキストを見せてもかまいません。

### ④ 読んだあとで

#### ふり返り・読書習慣に関する質問

- ・やりとりをふり返り、児童生徒の頑張りを認めた上で、普段の読書習慣や読書・言語環境、読書についてどのように感じているか話し合います。

#### 読みへの内省

- ・高学年や中学生の場合は自分自身がどのように読んで、どのように理解しているかということに対する内省を促します。

## (7) 実施上の留意点

- ・話し合ったり、励ましたりしながら、児童生徒の理解を深め、発話をできるかぎり引き出します。
- ・途中で児童生徒の読みや話を遮ったり、否定したり、訂正してはいけません。
- ・質問されたとき以外は答えを教えません。質問されたときはわかりやすく答えます。
- ・良いところを見つけて、積極的に褒めます。
- ・この時間が児童生徒にとって楽しい読書の時間となるように心がけます。
- ・DLA〈読む〉では、日本語が出てこない場合に母語で答えさせたり、絵や図表を示して答えさせたりしてもかまいません。児童生徒の話す内容を録音して、測定終了後に、母語話者に聴いてもらうとよいでしょう。
- ・測定中に診断シートに評価を記入してはいけません。正確な評価、記録のために録音をしましょう。

## (8) 評価の方法

- DLA〈読む〉が終了したら、採点・評価にうつります。

### 用意するもの

- DLA〈読む〉の採点・評価には以下のものを使用します。
  - 録音（録画）したデータ
  - 読んだテキストに対応した**DLA〈読む〉診断シート**（本章p63-71）
    - ※テキストレベルC2とDの診断シートは、対象児童生徒の年齢枠に応じて、2つの種類が準備されているので、該当するほうを使用。
  - JSL評価参照枠「読む」

### 評価手順

- 録音したデータを聞きながら、読んだテキストに対応する診断シート(p63-71)に示された評価項目について、5点（とてもよい）、3点（ふつう）、1点（もう少し）で採点します。判断に揺れる場合は、2点、4点をつけてもかまいません。
- 総合得点の平均点を算出します。
- それぞれの診断シートに示されたテキストレベルと算出した評価点を、JSL評価参照枠「読む」(p72)に照らし合わせ、また、普段の学習活動の様子もふまえて、総合的にステージを判定します。

### 診断シートの評価項目とJSL参照枠との関係

- 診断シートには、テキストレベルと年齢枠に応じた評価項目が記載されています。診断シートの評価項目とJSL評価参照枠「読む」との対応関係は下記の通りです。

JSL評価参照枠 (読む)	診断シートの 評価項目	6-10歳 (低・中学年)		10-15歳+ (高学年・ 中学生)
		A	B, C, D	C, D, E, F
読解力	順序・流れ／構成(あらすじ)	○	○	
	人物・場面(様子)／描写・説明	○	○	
	感想	○	○	
	内容理解と要約			○
	要旨・主題の解釈			○
	要旨・主題に対する意見			○
読書行動	予測・推測	○	○	○
	音読のつまずきへの対処		○	○
	自分の読みへの内省			○
音読行動	文字と音の対応	○		
	カタカナ語の識別と読み	○		
	特殊読み	○		
	音読の正確さ	○	○	○
	区切り方		○	○
	表現・イントネーション		○	○
漢字・ 語彙	あらすじ再生での重要な語彙の使用度	○	○	○
	語彙や漢字の読み		○	○
読書習慣 興味態度	読書嗜好	○	○	○
	読書の質と量	○	○	○

## (9) 備考

### テキストの代用について

- **DLA**〈読む〉の実施方法、評価方法に慣れてくれば、この7冊のテキストだけでなく、それぞれのレベル（AからF）に該当する市販のテキストで代用しても構いません。それぞれのレベルの示す大まかな特徴は、下記のとおりです。

レベル	特 徴
A	就学前児童向けテキスト。絵のみでもストーリーが推測できる絵本。文、単語の繰り返しによって時系列に話が進むもの。1ページに1～3文程度。全体で80～350文字程度の長さ。
B	小学1年生前半の児童向けテキスト。ごく簡単で身近なストーリーの絵本や挿絵が多い物語文。1ページに3～6文。全体で300～800文字程度の長さ。
C1	小学1年生後半の児童向けテキスト。簡単なまとまり(ストーリー)のある挿絵や写真付きの物語文。全体で1000～2600文字程度の長さ。
C2	小学2年生向けテキスト。身近なテーマで、簡単なまとまり(構成)のある挿絵や写真付き説明文。全体で500～1000文字程度の長さ。
D	小学校中学年向けテキスト。登場人物、場面、心情の描写が加わった物語文や、因果関係に関する説明が加わった社会・理科的内容の説明文。やや長めで章立てがある。
E	小学校高学年向けテキスト。子どもを対象とした文学作品や、伝記、教科語彙を含む自然や社会的なテーマの説明文。
F	小学校終了から中学校前半向けテキスト。子どもを対象とした文学作品や、伝記、教科語彙を含む自然や社会的なテーマの説明文。主にEよりも語彙や漢字の難易度が高い。